

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 対象校名 沼津工業高等専門学校

(2) 所在地 静岡県沼津市大岡3600

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気電子工学科，電子制御工
学科，制御情報工学科，物質工学科

専攻科：機械・電気システム工学専攻，制御・情報
システム工学専攻，応用物質工学専攻

(4) 学生数及び教職員数（平成23年5月1日現在）

学 生 数：準学士課程1,047名，専攻科課程62名

教職員数：教員 81名（校長含む）

職員 47名

2 特徴

沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、産業界からの強い要望に応えるため、昭和37年4月に2学科（機械工学科，電気工学科）で創設された。以後、時代の要請に伴い、昭和41年に工業化学科を設置、昭和61年に電子制御工学科を設置、平成元年に工業化学科を物質工学科に改組、平成4年に機械工学科の1学級を制御情報工学科に改組、平成8年に専攻科（3専攻）を設置、平成11年に電気工学科を電気電子工学科に名称変更し、準学士課程5学科，専攻科課程3専攻として現在に至っている。

本校では、創設以来、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」との教育理念の下、静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ、専門教育においては、実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者を養成することを目的に教育を行っている。

この教育理念及び目的に基づき、(1)低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人教育を行うとともに、(2)コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者、(3)実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者、(4)教員の活発な研究活動を背景に、創造的技術者の養成を教育方針に掲げ、「進取の気風に富み、幅の広い豊かな教養と質の高い専門の工業技術の知識を身に付け、新たな発想の下に、技術革新を担うことができ、企業から信頼される指導的な実践的技術者の

養成」を実践することにより、工業系を中心とした産業界に有益な人材を輩出してきた。

準学士課程においては、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、一般科目と専門科目を楔形に編成し、5年間一貫教育で効果的な専門教育を実施している。また、準学士課程の成果を基礎としてさらに高度な知識と技術の習得を目指す専攻科課程においては、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的として、実践的・創造的教育を行っている。

一方、本校の特徴の一つに、前述の教育方針にも掲げた「低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人教育を行うこと」があり、入学後2年間の学生寮入寮を原則義務付けている。寮生の生活指導には、専任の寮監を配置し、全教員の輪番による宿直とともに、寮務担当教員と学生課寮務係の職員が当たり、また、寮生が組織する「寮生会」の自治も効果的に機能し、共同生活による学生の社会性の向上に寄与している。

また、平成16年度に設置された地域共同テクノセンターを核として、産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者を養成するために、地域企業との共同研究・受託研究が活発に行われている。共同研究・受託研究のテーマが卒業研究・専攻科研究のテーマとして学生の教育の一環として進められることにより、総合開発能力の育成及びプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の育成に成果を挙げている。

平成21年度に採択された文部科学省科学技術振興調整費事業（地域再生人材創出拠点の形成）「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は、静岡県が沼津市を中心とする県東部地域に展開している「ファルマバレープロジェクト」の推進による地域再生計画を人材育成面から支援している。沼津高専が中心となり東海大学開発工学部、ファルマバレーセンター、地域医療機関、産業界及び行政と連携して、中小企業技術者を医用機器開発の中核となるエンジニアに養成している本プログラムは、異分野融合による高専教育の分野の拡大を具現化するものであり各界から注目されている。